

第12回「いけいけチャレンジ！遠賀川」発表会

- 開催日時：平成28年3月5日（土） 13:00～16:00
会場：遠賀川地域防災施設（遠賀川水辺館）
目的：「いけいけチャレンジ！遠賀川」は、小中学生が遠賀川等の河川を題材にした学習・活動を発表する会であり、河川環境教育の推進や参加校同士の交流を図ることを目的に実施しています。
主催：遠賀川河川事務所
後援：福岡県教育委員会
運営：YNHC、中高生のボランティアスタッフ

時間	プログラム
13:00	開会挨拶
13:15	直方市立下境小学校発表（私たちの川「遠賀川」～遠賀川の魅力を発信しよう～）
13:35	直方市立直方南小学校発表（ビオトープを活用した米作り）
13:55	嘉麻市立稲築東小学校（ぼくたち・私たちの山田川を守る！）
14:15	休憩
14:25	岡垣町立吉木小学校発表（「ちたる川」は豊かな川なのか？）
14:45	飯塚市立飯塚小学校（飯塚大水害を語り継ぐ）
15:05	芦屋町立芦屋東小学校（私たちの遠賀川）
15:25	中間市立中間東小学校（ふるさと中間へ戻ってくる鮭を夢見て卵から観察し、気がついたこと）
15:35	休憩
15:40	全体講評
15:50	感謝状授与
16:00	閉会



■各学校等の発表概要

直方市立下境小学校「私たちの川「遠賀川」～遠賀川の魅力を発信しよう～」



- ・遠賀川の様子を四季に分け劇やクイズ形式で発表した。
- ・生き物調査を2回実施、1回目は水辺館にいる遠賀川の魚をスケッチし、2回目は水辺館のビオトープにいる水生生物を採取し観察した。その結果、身近な自然をほんの少し調査しただけで、様々な生物が生息していることに気づいた。
- ・遠賀川の河口には淡水と海水が混ざり合うところがあり、そこでは鮎、まはぜ、ウナギなどが生息していることが分かった。
- ・今回の調査から遠賀川周辺には四季折々、様々な生物が活動していることがわかった。
- ・これからも生物調査などを通じて遠賀川の魅力を発信していきたい。
- ・水辺館周辺には水辺をエサ場にする水鳥や河川敷を好む小鳥が毎年訪れ、年間を通じて様々な野鳥が観察できる。

直方市立直方南小学校発表（ビオトープを活用した米作り）



- ・総合的な学習の時間で、水辺館のビオトープで1年間、米作りを行ったことをパワーポイントで発表した。
- ・米作りの手順は、1.田おこし・代かき・種まき→2.田植え→3.看板づくり→4.稲刈り→5.だっこく・もみすり→6.しめ縄づくり→7.炊飯の順に作業を行った。
- ・米作りは、泥に足を取られて作業はとても大変だった。
- ・もみすりは、鉢と野球ボールを使用し行ったが、2合ぐらいしか出来なかった。
- ・米作りを体験したことで、普段何気なく口にしていた食べ物が、多くの時間と労力によって生産されていたことがわかった。
- ・お米作りを行って、食べ物のありがたさがわかった。

嘉麻市立稲築東小学校（ぼくたち・私たちの山田川を守る！）



- ・授業の一環で山田川について学んだことがきっかけで山田川を調べるようになった。
- ・山田川についての印象は、きれいな川、よごれて汚い川と大きく2つに分かれたので、本当に綺麗な川なのかを調べるためにパックテスト(水質検査)を行った。
- ・山田川の水質は、上流に近づくほど数値は低く水はきれいだが、下流に流れるほど数値が高く汚れていることがわかった。



- ・川の中にはゴミが散乱し家庭から出る生活排水と合わさり、現在の山田川のような状況になっている。
- ・川を綺麗にしていくため自分たちに出来ることは、ゴミを捨てないこと、リサイクルできない物は買わないこと、調査しまとめたものを身近なところ(家族など)に見せて発信していくこと。
- ・今回学習して学んだことを自分たちの出来る範囲の中で実践し、私たちの川を残していきたい。

岡垣町立吉木小学校発表（「ちたる川」は豊かな川なのか？）



- ・ちたる川の周辺状況を各グループに分かれ調査し模造紙を使い発表した。
- ・吉木小周辺の状況を科学的に調べるため、パックテストを行った。
- ・井戸水、上流、中流、下流とテストを行った。数値から判断すると下流よりも上流のほうが数値が低くきれいな川であることがわかった。
- ・ちたる川が汚れている主な原因は、ゴミのポイ捨てや家庭から出る排油、生活排水だった。



- ・春夏秋冬、四季に応じて植物が咲いていることを再発見し、より詳しく調べてみたいと思った。
- ・ちたる川を県の指標と照らし合わせてみると、自然が失われつつあることを実感した。
- ・今回の学習で学んだことをきっかけにして、ゴミは持ち帰る、ゴミのポイ捨て行為を注意するなど、自分たちの出来る範囲で地域の自然を残していきたい。

飯塚市立飯塚小学校（飯塚大水害を語り継ぐ）



- ・飯塚大水害についてパワーポイントを使い発表を行った。
- ・実際に体験したわけではないが、平成15年に集中豪雨で飯塚市が水害に見舞われ、自分たちの住む町が浸水してしまった。
- ・平成21年は平成15年を上回る大雨に見舞われたにもかかわらず、平成15年よりも被害が少なかった事がわかった。
- ・平成15年の被害を受けて、川の中の整備、橋の架け替え、調整地やポンプ場を設置することによって被害を減らしたことがわかった。
- ・「自分たちの生命財産は自分たちで守る」という思いから地域で災害対策を呼びかける団体もできた。
- ・今回の学習を通じて、多くの人の支えによって守られていることに気付かされた。
- ・少しでも被害を抑えることが出来るように飯塚大水害のことを語り継いでいきたい。

芦屋町立芦屋東小学校（私たちの遠賀川）



- ・遠賀川魚道公園を観察し気付いたことを4つのチームに分かれ、パワーポイントで発表した。
- ・平成20年当時、上流、下流の河川敷はコンクリートに覆われており、生き物にとって住みにくい環境だったが、平成26年には改善され生き物の住み家やエサとなる植物が増えたために、今では多くの生き物が観察できる。
- ・人間が利便性を求めて河口堰を設置した結果、魚が困ってしまったので、その状況を改善するには、再び人の手が必要になることを理解した。
- ・川を汚している主な原因は家庭から出る生活排水のため、一人一人の心がけで川をきれいに保つことができることがわかった。
- ・遠賀川では大雨などで流されたゴミが河口堰にたまるので、常日頃からの心がけ次第でゴミの問題はだいぶ改善される。
- ・今回の学習をきっかけに、身近なところから改善することの大切さを痛感した。

中間市立中間東小学校

(ふるさと中間へ戻ってくる鮭を夢見て卵から観察し、気がついたこと)



- ・「さけ」を卵の状態から稚魚になるまで育て、その過程をパワーポイントを使い発表した。
- ・卵の大きさは約5ミリ程度の小さなもので、透明で透き通っており、目も確認できた。
- ・孵化した直後、お腹に赤い大きな袋状のもの(栄養分)をぶら下げていたが、一か月程度でしぼんだ。
- ・放流する前、「さけ」が大人になり4年後再び遠賀川に戻って来る頃には、どのような川であるべきかを話し合った。
- ・「さけ」の放流がきっかけとなり、「命を育む遠賀川を皆で大切にしよう」という心が芽生えたと思う。
- ・「さけ」の放流がこれから先も引き継がれていく中、「命を育む遠賀川」という共通認識を皆が持てるような活動の輪を広げていきたい。

